

理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

[思考力・判断力・表現力等]

- ・課題解決のための観察・実験を計画・実施し、結果の整理・分析を通して、基本的な科学事象を理解する力を養う。
- ・既習の科学事象の見方・考え方を活用し、新たな課題について取り組み、科学的な見方・考え方を深め養う。
- ・自己の学習を振り返り、主体的に自己の学力を調整する力を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な改善策 （「主体的・対話的で深い学び」における）	手だての実施時期	年度末評価（2月）
第1学年	・根拠となる観察・実験結果を基に、自分の考えをまとめ、適切に表現し説明することが苦手である。そのため、課題に対し根拠や理由を付けた説明ができるようにする。	・学習課題についてわかりやすく提示し、主体的・継続的に取り組めるよう指導する。 ・事実を基に、自己の考えを他者と共有し、共通点・相違点から考えを深め、わかりやすく表現できるよう指導する。	2・3学期	・授業のねらいに加え、観察ポイントをとらえさせてから実験に取り組ませること、状態や変化を示す図と合わせて説明を考えさせることで、現象の理解や考え方が深まり、適切な表現へとつながった。
第2学年	・活発に発言する生徒がいる半面、話し合いに参加せず、何もしない生徒もいる。 ・計算、科学的思考が苦手な生徒がいる。	・前の時間に学んだことを復習する。 ・生徒同士で学び合う時間を作る。 ・1人1台端末で問題演習をする。 ・CRTテストを行い、単元の復習をする。	・2・3学期	・授業の振り返りを通して、主体的・探究的に取組を行う生徒が増えた。 ・計算や科学的思考は未だ苦手な生徒が多い。
第3学年	・計算や応用問題が苦手な生徒が多い。 ・学んだときは覚えているが、次の時間には忘れてしまう生徒もいる。 ・実験の考察が苦手な生徒が多い。	・前の時間に学んだことを復習する。 ・生徒同士で学び合う時間を作る。 ・1人1台端末で問題演習をする。	・1・2・3学期	・一人一台端末で問題演習を行ったが、有効に利用した生徒と、答えの記号だけ覚える意味のない覚え方をした生徒に分かれた。

■ICTを活用した授業における改善策

1年：事象の変化をとらえたり、表現したりするツールとして、静止画・動画、提示ソフトを使用する。

2年：自動採点の問題演習を行う。満点が取れるまで何度も挑戦させる。

3年：自動採点の問題演習を行う。満点が取れるまで何度も挑戦させる。